



読ン得本々2012年版

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-08-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/13870">http://hdl.handle.net/10466/13870</a>

★大阪府立大学図書館委員会からのおすすめ★

2012年版

「新入生に薦める100冊の本」より

# 本 読 々 得

大阪府立大学学術情報センター  
大阪府立大学生生活協同組合 共同企画・制作  
大阪公立大学共同出版会



## ☆「読書マラソン」ってご存知ですか？

在学中に本を継続的に100冊以上読もうという、企画のことです。

## ☆何のために読書するの？

読書は自分をつくるものです。  
自己形成にとって強力な道となります。

読書は自分を広げます。

コミュニケーション力がアップします。

読書は楽しいものです。

あらゆる時代で、世界の人と対話できる力を養います。

## ☆参加するにはどうしたらいいの？

- 生協の組合員の方なら誰でも参加できます。
  - 読む本は、教科書や雑誌は除きます。
  - お申込みのときにPOPカードを書いていただきます。
- 提出していただくPOPカードは店内掲示、ホームページ及び広報宣伝物に掲載させていただく場合があります。  
なお、掲載はペンネームのみでいたします。
  - POPカードを出すたびにスタンプを捺印します。
- そのスタンプ10個で割引利用券などをプレゼントいたします。
  - 詳しくは、生協書籍カウンターにお問い合わせください。

大阪府立大学生協書籍部

電話 072-259-1736(書籍部直通)

E-mail : fudaibook@osaka.seikyou.ne.jp





# ☆本も読もう！

～教員から新入生へのメッセージ～



みなさんは、どのようにしていろいろな知識や必要な情報を手にしていますか？

インターネットを使えば、簡単に調べものができるし、電子ブックや電子ジャーナルなどの電子出版物もたくさんあります。本を手にとって読む機会はどんどん減っているのかもしれない。

そんな時代だからこそ、大阪府立大学の新入生となった皆さんに読んでもらいたい本を、さまざまな分野の教員が選びました。専門分野だけではなく、もっと広い教養分野から選んだ本もあり、古典的名著から新刊本までバラエティーに富んでいます。もうすでに読まれた本もあるかもしれません。新入生のみなさんにはちょっと難しそうと思われる本もあるでしょう。

本から得る知識・情報だけではなく、教員のコメントからも、これからの大学生活に活かせる「何か」を得てもらえると期待しています。

大阪府立大学羽曳野図書センター長 奥田邦晴



## ☆執筆の教員名（50音順）



青山ヒフミ  
荒木長照  
飯田琢也  
石井孝定  
伊田久美子  
伊藤良子  
榎田 努  
大木 理  
奥田邦晴  
小野木伯薫  
片岡道彦  
川又修一  
河村裕一  
日下部祥子  
高津正秀

児島千恵  
小島久典  
小嶋宏文  
小山長規  
齊藤丈靖  
佐橋義直  
杉村延広  
大同寛明  
大門弘幸  
高橋 和  
田中宗博  
谷川寅彦  
津田 大  
東條元昭  
中村洋一

中村直子  
中山祐一郎  
中山 徹  
難波利幸  
西岡英毅  
西野智昭  
沼倉 宏  
野中紘士  
林 伸彦  
原田敦史  
樋口由美  
深山華織  
藤原宣夫  
古川朋雄  
古田雅一

本多克宏  
松浦義昌  
武藤明德  
邨次 誠  
森岡正博  
八木俊介  
矢澤彩香  
安田雅昭  
山口 睦  
山田加奈子  
吉田敦彦  
四谷 任  
米津 亮

(敬称略)

◆青山ヒフミ先生推薦<看護系>

『海からの贈物』

アン・モロウ・リンドバーグ(著)吉田健一(訳)

新潮社(新潮文庫) 1967 [978-4102046012]

高校時代の英語の教科書で出会って以来、折々に読み返しています。読む度に新しい意味を発見しています。

◆荒木長照先生推薦<社会科学系>

『R3コミュニケーション～消費者との「協働」による新しいコミュニケーションの可能性』

恩蔵直人、ADKR3プロジェクト(著)

宣伝会議 2011 [978-4883352524]

SNSの普及によりマーケティング・コミュニケーションは大きく変わりつつあります。企業は単に自社製品をPRするのではなく、消費者の社会とのかかわり方にコミットする必要が出てきました。本書は、明快なモデルと豊富な実例で語りかけます。

『買わない理由、買われる方法』

松田久一(著)

朝日新聞出版 2010 [978-4023308435]

格差社会と呼ばれ低所得者層の問題が議論されますが、十分な所得がありながらあまり買い物をしない消費者が増えています。本書はそのような消費者の欲望と、彼らへの効果的な販売方法をデータを用いて明らかにします。

◆飯田琢也先生推薦<戦略的研究部門>

『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン～人々を惹きつける18の法則』

カーマイン・ガロ(著)井口耕二(訳)外村仁(解説)

日経BP社 2010 [978-4822248161]

米国アップル社の創始者でもあるスティーブ・ジョブズ氏のプレゼンテーションの技法、魅力について解説しています。アカデミック、一般社会ともにプレゼン技術が求められる現在、新入生諸氏にとっても一読に値する1冊です。

『生命とは何か～複雑系生命科学へ(第2版)』

金子邦彦(著)

東京大学出版会 2009 [978-4130623100]

複製・細胞分化・形態形成・ゆらぎと適応などの複雑な生命機能を、非線形・非平衡力学の物理的観点で直感的かつ論理的な解説を行っています。煩雑な式もなく、物理系・化学系・生命科学系の幅広い分野の読者が生命の起源について思いを馳せて楽しめる1冊です。

◆石井孝定先生推薦<戦略的研究部門>

『光合成とはなにか～生命システムを支える力』

園池公毅(著)

講談社(ブルーバックス) 2008 [978-4062576123]

光合成に関する書籍は難解なものが多いのですが、唯一この本だけは至って簡単に誰にでも理解できるように書かれています。

(☆大門弘幸先生も推薦☆)

◆伊田久美子先生推薦<地域連携部門>-----

『<性>と日本語～ことばがつくる女と男』

中村桃子(著)

日本放送出版協会 2007 [978-4140910962]

海外小説の女性がやけに「女らしい」のはなぜ? 少女はなぜ自分を「ボク」と呼ぶのか? 「女ことば」は、私たちが日常使うことばではありません。当たり前に見える性別規範(ジェンダー)を、身近なことばを通して見直す好著です。

◆伊藤良子先生推薦<看護系>-----

『<脱・恋愛論>「純愛」「モテ」を超えて』

草柳千早(著)

平凡社(平凡社新書) 2011 [978-4582856101]

日本の諸制度は誰もが恋愛・結婚して家族をつくるものという前提で作られています。しかし、結婚する／しない、恋愛する／しないは、今や二者択一ですらありません。〈恋愛〉というつながり方を通して、他者とつながり、共にいる喜びを手にするため生き方考えるキッカケとなる書です。

◆煤田努先生推薦<機械系>-----

『理系のための口頭発表術』

ロバート・H.R. アンホルト(著)鈴木炎、イイイン・サンディ・リー(訳)

講談社(ブルーバックス) 2008 [978-4062575843]

英語での学会発表は、まだ縁遠いかもしれませんが、日本語でのプレゼンにも役立ちます。推薦者自身、英語に苦手意識を持っており、いつも助けになるものを探しています(分野は生命科学関連ですが、理系ということで推薦します)。

『スティーブ・ジョブズ(I・II巻)』

ウォルター・アイザックソン(著)井口耕二(訳)

講談社 2011 [978-4062171267, 978-4062171274]

これから必要とされる人を考えてもらうため推薦しました。会社でなくとも何かを作り上げるには、強い意志(情熱)や決断力が必要な場合があります。今の日本で、このような人の成功は稀だと思いますが、考えてみてほしいです。

◆大木理先生推薦<応用生命系>-----

『科学の考え方・学び方』

池内了(著)

岩波書店(岩波ジュニア新書) 1996 [978-4005002726]

科学とはどういうものか、基本となる考え方がいねいに整理されていると思い

ます。ジュニア選書ではありますが、これから学問を深く学ぶことになる皆さんに、ぜひ読んでほしい本です。

### 『植物と病気』

大木理(著)

東京化学同人(科学のとびら18) 1994 [978-4807912582]

植物科学の一分野である「植物病理学」というサンプルを通して、大学で学ぶ学問がどのようなもので、社会にどのように役立っているのかをしっかりと考えてください。自分の本で恐縮ですが。

◆奥田邦晴先生推薦<総合リハビリテーション系>

### 『大学で何を学ぶか』

加藤諦三(著)

ベストセラーズ(ベスト新書) 2009 [978-4584122303]

ようやく受験生活を終え、大学生になったあなた。さて、あなたは大学で何を学びますか? 大学は、学ぶことの喜びを学ぶところです。この本を読みながら、大阪府立大学をあなたにとっての素敵な大学にしていってください。

◆小野木伯薫先生推薦<物質化学系>

### 『透明金属が拓く驚異の世界~不可能に挑むナノテクノロジーの錬金術』

細野秀雄、神谷利夫(著)

ソフトバンク・クリエイティブ(サイエンス・アイ新書) 2006

[978-4797337327]

21世紀の材料科学最先端を覗き見ることができます。高校程度の知識で理解できるように工夫されています。「セメントは絶縁体である」という常識を覆されることとなり、新しい材料の時代を感じさせてくれる1冊です。

◆片岡道彦先生推薦<応用生命系>

### 『細胞夜話』

藤元宏和(著)

バレード・星雲社 2008 [978-4434121630]

分子生物学や生化学を習い始めると必ず目にする事柄について、その起源などがわかりやすく記述されています。将来当たり前のように使う材料や技術について知っておいてください。

◆川又修一先生推薦<地域連携部門>

### 『物理法則対話』

亀淵迪(著)

岩波書店(岩波科学ライブラリー43) 1996 [978-4000065436]

本書は、ニュートン力学をはじめとする物理学の基本法則について、その解釈および歴史的意味等を対話形式で議論・解説しています。できれば文化系の方にも、わかる範囲だけでも読んでいただければと思います。

『寺田寅彦は忘れた頃にやって来る』

松本哉(著)

集英社(集英社新書) 2002 [978-4087201444]

「天災は忘れた頃にやって来る」と言ったとされる寺田寅彦は、実験物理学者であるとともに、優れた随筆家でもありました。夏目漱石・正岡子規といった文学者とも深い交流があったそうです。波乱に富んだ始まりとなった21世紀を考える上で、あらためて注目されるべきその魅力的な人物像が描かれています。

『「草枕」変奏曲～夏目漱石とグレン・グールド』

横田庄一郎(著)

朔北社 1998 [978-4931284388]

カナダの天才ピアニスト、グレン・グールドは、死ぬまでの長い間、夏目漱石の小説「草枕」を愛読していました。グールドが共鳴した漱石の人生観、芸術観を、まるで対位法のような形でまとめたエッセイ。「はじめに」と「おわりに」の間に30の変奏曲に対応する節が「ゴルトベルク変奏曲」を連想させる構成となっています。

『エレガントな宇宙～超ひも理論がすべてを解明する』

ブライアン・グリーン(著)林一、林大(訳)

草思社 2001 [978-4794211095]

物理学の歴史のなかで最も大きな成果として語られる相対性理論と量子力学。現代物理学の柱とも言えるこの2つの理論は実は両立せず、数多くの物理学者がこの対立を解消しようと試みましたが、挫折しました。本書はこの物理学最大の難問を中心に、第一線の物理学者である著者が、巧みな表現で最新の宇宙の姿を描いています。

『感光生活』

小池昌代(著)

筑摩書房 2004 [978-4480803818]

詩人であり作家でもある作者の独自の感性に満ち溢れた15の短篇からなる小説集。日常生活の中に、ふと立ち現れる暗い裂け目に、えぐるような視線がそそがれています。詩人によって選び抜かれた言葉が光っており、印象に残る作品集です。

『科学論入門』

佐々木力(著)

岩波書店(岩波新書) 1996 [978-4004304579]

21世紀に入り、科学技術が高度化・専門化へと突き進むなか、我々は科学技術をどのように捉え、いかに対処してゆくべきなのか、その意味が現在あらためて問われ直されていると言えます。科学史家である著者は、21世紀のための新しい総合的科学技術像を提起しています。

◆高津正秀先生推薦<物質化学系>-----

『理系の女の生き方ガイド～女性研究者に学ぶ自己実現法』

宇野賀津子、坂東昌子(著)

講談社(ブルーバックス) 2000 [978-4062573078]

最近、大学でも学会でも女性研究者の育成、待遇改善の試みが多くなされています。この本は、2人の女性研究者が自身の体験を基に書いたもので、理系の女子学生にお薦めですが、男性が読んでもためになるかと思います。

◆児島千恵先生推薦<戦略的研究部門>-----

『ゾウの時間 ネズミの時間～サイズの生物学』

本川達雄(著)

中央公論社(中公新書) 1992 [978-4121010872]

生物学の研究者が書いた雑学書。これを読めば時間の概念が変わるかも。今後、大学生活をどう過ごすかを考える意味でも、新入生にお薦めの本です。

◆小島久典先生推薦<総合リハビリテーション系>-----

『スマイルズの世界的名著 自助論』

サミュエル スマイルズ(著)竹内均(訳)

三笠書房 2002 [978-4837972396]

激動の昨今に必要な考え方を歴史上の人物の生き方を基に論じています。お薦めです。

『太陽の子』

灰谷健次郎(著)

角川書店(角川文庫) 1998 [978-4043520107]

沖縄の歴史を基に本当の優しさを教えてください。

『作業療法士まるごとガイド(改訂版)』

日本作業療法士協会(監修)

ミネルヴァ書房 2006 [978-4623046461]

日本作業療法士協会が監修している作業療法士の紹介の本です。作業療法って何？がわかりやすく紹介されています。

◆小嶋宏文先生推薦<社会科学系>

『ロジカルシンキングが身につく入門テキスト～「ロジカルって何？」から「身近な実践法」まで』

西村克己(著)

中経出版 2003 [978-4806118466]

社会人に求められるスキルの一つにロジカルシンキングがあげられます。本書を読むことにより、大学生のうちから論理的に考える習慣を身につければ、学生生活をよりよくでき、なおかつ素晴らしい社会人となるための基礎力が作れます。

◆小山長規先生推薦<電気情報系>

『プログラムはなぜ動くのか～知っておきたいプログラムの基礎知識(第2版)』

矢沢久雄(著)

日経ソフトウエア 2007 [978-4822283155]

表題のとおりプログラムがパソコン上でどのように動作するのかをメインテーマに、パソコンのちょっと深めの基礎知識(CPU・メモリ・ディスクなどの関係)をとでもわかりやすく解説しています。プログラミング初心者だけではなく、より詳しくパソコンについて知りたいという方にも是非。

◆齊藤丈靖先生推薦<物質化学系>

『これを英語で言えますか?～学校で教えてくれない身近な英単語』

講談社インターナショナル(編集)

講談社インターナショナル(講談社パワーイングリッシュ) 1999

[978-4770021328]

大学入学まで6年以上英語を勉強してきました。とはいえ、ますます多国籍化が進む将来に向けて、英語でジョークの1つくらい言えるほうが格好良いよね…。ということで、漫画やドラマに出てくる下世話な表現を含めたいろんな英語に親しみましょう。この本を読めば、「今年は花粉症に苦しんだ」なんてすぐに英語で言えるようになりますよ。

◆佐橋義直先生推薦<社会科学系>

『ヤバい経済学(増補改訂版)』

スティーヴン・D・レヴィット、スティーヴン・J・ダブナー(著)望月衛(訳)

東洋経済新報社 2007 [978-4492313787]

中絶合法化や相撲の八百長の話など、社会の様々なトピックについてデータを巧みに利用しながら迫って行く経済学。とりわけ、実証研究の醍醐味を味わえる一冊です。

『経済学で現代社会を読む(改訂新版)』

ロジャー・ミラー、ダニエル・ベンジャミン、ダグラス・ノース(著)赤羽隆夫(訳)

日本経済新聞出版社 2010 [978-4532354305]

市場や国家について考える機会を与える、絶好の経済学入門書。人々のためによ

かれと行って行われる政策がしばしば誰の役にも立っていないことを具体的な事例に沿って教えてください。改訂新版では住宅バブルの問題も取り上げられています。

### 『論理トレーニング～哲学教科書シリーズ（新版）』

野矢茂樹(著)

産業図書 2006 [978-4782802113]

情報があふれかえる現代だからこそ、一つ一つの情報を確実に吟味することはますます重要になりつつあります。そしてそのために不可欠なのが論理的な思考力です。本書は、演習問題を通して効果的に論理的な思考力を身につけてくれます。

#### ◆杉村延広先生推薦<機械系>

### 『クルマはかくして作られる～いかにして自動車の部品は設計され生産されているのか』

福野礼一郎(著)

二玄社(別冊CG) 2001 [978-4544910025]

自動車を例に取り、それらの部品の生産や組立の内容などを写真を使って解説しています。実際の工場での見学を通して書かれているので、理科系・文科系を問わず非常に理解しやすく、ものづくりを俯瞰するために良い図書であると考えます。

#### ◆大同寛明先生推薦<物理系>

### 『孤高の人(上・下巻)』

新田次郎(著)

新潮社(新潮文庫) 1973 [978-4101122038, 978-4101122045]

この本は単独行の登山家として名を馳せた加藤文太郎の短い生涯を描いた小説です。彼は優秀な技術者でもありました。彼の真摯な生き方に感動してください。

#### ◆大門弘幸先生推薦<応用生命系>

### 『有機農業と遺伝子組換え食品～明日の食卓』

ロナルド・パム、アダムシャ・ラウル(著) 椎名隆、石崎陽子(訳)

丸善出版 2011 [978-4621084007]

日本では、有機農業と遺伝子組み換えは相反するもののように取り扱われることが多くあります。これからの農業生産を考える際に、両者の関係をより深く理解して、両分野を学ぶ学生として多くの考え方をを知るための一冊となることは間違いのないと思います。

### 『光合成とはなにか～生命システムを支える力』

園池公毅(著)

講談社(ブルーバックス) 2008 [978-4062576123]

植物科学を学ぶ際の基礎として重要な光合成について、初学者にわかりやすく研究のエピソードなども含めて書かれています。電子伝達系から炭酸ガス固定の多様性まで一通り理解できるのでお薦めです。

(☆石井孝定先生も推薦☆)

## 『自然に学ぶものづくり～生物を観る、知る、創る未来に向けて』

赤池学(著)

東洋経済新報社 2005 [978-4492800744]

人間力・昆虫力・植物力・微生物力・地球力と称して、自然界に起きている多様な事象を解明する研究事例を平易な文章で書いています。民間団体の研究費助成によってまとめられた研究成果の紹介でもありますが、自然に学ぶという発想を読み取ることができます。

## 『合理的農業の原理(上・中・下巻)』

アルブレヒト・テア(著)相川哲夫(訳)

農山漁村文化協会 2007

[978-4540072055, 978-4540072062, 978-4540072079]

現代農業を持続可能な農業にいかにかに転換していくかについて、近代農学の始祖であるテアの考え方の基礎を紹介している訳書です。有機農業のバイブルとしてヨーロッパで本書の占める位置は高く、一読の価値あります。

### ◆高橋和先生推薦<戦略的研究部門>

## 『見て楽しむ量子物理学の世界～自然の奥底は不思議がいっぱい』

ジム・アル・カーリー(著)林田陽子(訳)

日経BP社 2008 [978-4822283407]

美しいカラーイラストがたっぷり入った量子物理学の読み物。「量子の不思議な世界」を堪能できます。量子力学の基礎は今も進歩を続けています。また、量子物理学の応用として、量子暗号・量子コンピューター・量子テレポーテーションといった新しい話題にもふれています。

### ◆田中宗博先生推薦<地域連携部門>

## 『方丈記』

鴨長明(著)浅見和彦(校訂・訳)

筑摩書房(ちくま学芸文庫) 2011 [978-4480094070]

今年は、鴨長明『方丈記』執筆より八百年の記念の年となります。原稿用紙20枚程度の小品ですが、無常観の文学・災害記録文学・隠者法語文学と、多面的な読みを許す本書は、その明晰な和漢混交文体と相まって、中世散文文学の精髓の名に恥じない作品です。

### ◆谷川寅彦先生推薦<緑地環境系>

## 『動的平衡～生命はなぜそこに宿るのか』

福岡伸一(著)

木楽舎 2009 [978-4863240124]

生命現象の核心を解くキーワード、それを<動的平衡>(dynamic equilibrium)と分子生物学者・福岡伸一氏は言います。なお、現代の地球環境議論に対し単純にこれを隠喩とするのは難しいでしょう。

## 『動的平衡 2 ～生命は自由になれるのか』

福岡伸一(著)

木楽舎 2011 [978-4863240445]

生命の本質は自己複製ではなく絶え間のない流れ、すなわち動的平衡にあります。新しい潮流エビジェネティクスとは？ 必須アミノ酸の意味とは？ 本書は前書と同じに反論が多くあるだろうけれど興味深い作品です。  
(☆中村洋一先生も推薦☆)

◆津田大先生推薦<物質化学系>-----

## 『イシ～北米最後の野生インディアン』

シオドーラ・クローバー(著)行方昭夫(訳)

岩波書店(岩波現代文庫) 2003 [978-4006030858]

この本は、ネイティブ・アメリカン、ヤヒ族の最後の男「イシ」の生い立ちについて書かれたものです。長い潜伏生活の後、文化も言語も異なる現代社会に出現したイシを通して、文明とは何かを再考させられる一冊です。

◆東條元昭先生推薦<応用生命系>-----

## 『銃・病原菌・鉄～一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎(上・下巻)』

ジャレド・ダイヤモンド(著)倉骨彰(訳)

草思社 2000 [978-4794210050, 978-4794210067]

自然界の多様性が文明の発達にどれほど大きな影響を及ぼしたかを、進化生物学や考古学などの幅広い視点から説き明かしたベストセラー。新たな病気の流行など、現代社会の問題解決にも目から鱗の助言を与えてくれる名著。

◆中村洋一先生推薦<獣医系>-----

## 『続・失敗百選～リコールと事故を防ぐ60のポイント』

中尾政之(著)

森北出版 2010 [978-4627667716]

3.11の震災後の原発事故のことが含まれていないのは3ヶ月前の出版だからです。この未曾有の事故はこれら60の失敗シナリオのどれに分類するのだろうか？「続々」の出版が待ち遠しくなります。

## 『ダンゴムシに心はあるのか～新しい心の科学』

森山徹(著)

PHP研究所(PHPサイエンス・ワールド新書) 2011 [978-4569796550]

仰向けにしたダンゴムシの腹に空気を吹きかけると丸くなります。この現象は繰り返すと馴れてきて反応が鈍くなる(反射と慣れ)けれど、丸くなった後、元に戻る時間は個体により千差万別で、繰り返しても変わらず自律的です。著者はこのような実験からダンゴムシに心があることを確信しました。心とは何かを考え直しましょう！

## 『「わかる」とはどういうことか～認識の脳科学』

山鳥重(著)

筑摩書房(ちくま新書) 2002 [978-4480059390]

ひとはわかりたい動物です。「知る」と「わかる」の違いは何でしょうか? わかったことは行為に移せる、つまり応用できるかどうかです。今や情報はふんだんに容易に手に入れることができます。その情報を「自分なりに、整理して区別して、ルールを見いだす」ことでわかったこととなります。

### 『くらしのこよみ～七十二の季節と旬をたのしむ歳時記』

うつくしいくらしかた研究所(編集)

平凡社 2012 [978-4582415087]

iPad用のアプリでは二十四節気七十二候のうち、その日の候を無料でみることができます。5日おきが変わる、その美しい絵巻物を保存したくて買ってしまいました(2200円)。高くない買い物です。冊子体も発売されました。日本の季節を楽しみませんか?

### 『角川類語新辞典』

大野晋、浜西正人(著)

角川書店 1981 [978-4040117003]

英語には Rojet's Thesaurus等類語辞典の定番がありますが、日本語ではまだ定番といえるものはないようです。日本語の文章を書いていて言葉を探すときは和英辞典? 英和辞典を使う方法もありますが、まどろっこしい! 検索の容易なこのデジタル版は使えます。iOSが使える人にお薦めです。

### 『藤井旭の天文年鑑～スターウォッチング完全ガイド 2012年版』

藤井旭(著)

誠文堂新光社 2011 [978-4416211311]

2012年、最大の天文イベントは5月21日(月)の金環食。大阪の最大食は午前7時29分。日食は、地球上で年に2回ほど観られるとしても、大阪に居ながらにして中心食(皆既食または金環食)が観られるのは100年に一度もないので、これが見納めかもしれない…と私は心して晴れることを祈ります。

### 『動的平衡2～生命は自由になれるのか』

福岡伸一(著)

木楽舎 2011 [978-4863240445]

「生物と無生物のあいだ」のヒット作の後も、次々と読みやすいサイエンスエッセイを出版している著者の最新作。生命の本質が「動的平衡」であるという著者の主張に納得できますか?

(☆谷川寅彦先生も推薦☆)

### 『大学とは何か』

吉見俊哉(著)

岩波書店(岩波新書) 2011 [978-4004313182]

ヨーロッパに始まった大学の歴史から、明治期の日本の大学の変遷と戦後の教育制度改革、そして大学紛争・大学院重点化・大学法人化という流れの社会的な考察の上に、大学が目指すべきものが卓越性(エクセレンス)と自由性(リベラルな知)であると結論づけているのですが、今の府大はその方向に向かっているのでしょうか?

◆中村直子先生推薦<人文科学系>

『英仏百年戦争』

佐藤賢一(著)

集英社(集英社新書) 2003 [978-4087202168]

黒太子エドワード、ジャンヌ・ダルク、世界史の授業で名前は聞いたことはあっても、実際どんな戦績を挙げた人か知っていますか? 歴史小説を得意とする作家が書く、目から鱗の英仏関係。著者の小説を読む時も楽しめるオマケ付きです。

◆中山祐一郎先生推薦<応用生命系>

『これから学会発表する若者のために～ポスターと口頭のプレゼン技術』

酒井聡樹(著)

共立出版 2008 [978-4320005792]

人前で自分の意見を発表する、プレゼンテーションの機会はこれからたくさんあります。学会発表に限定せず、人前で自分の意見をわかりやすく述べる方法として読んで面白いです。

『書くことが思いつかない人のための文章教室』

近藤勝重(著)

幻冬舎(幻冬舎新書) 2011 [978-4344982338]

文章を書くことの重要性に、文系や理系の違いはありません。レポートで、試験で、そして将来はエントリーシートや卒論で、文章で苦労する前に、是非読んでおきましょう。

『これからレポート・卒論を書く若者のために』

酒井聡樹(著)

共立出版 2007 [978-4320005747]

レポート・卒論とは何か? どういう心構えをもって書くべきなのか? 書くために必要な技術は何か? これからレポート・卒論を書く皆さんにとって必要なことが書かれています。

『理系のための「即効!」卒業論文術～この通りに書けば卒論ができあがる』

中田亨(著)

講談社(ブルーバックス) 2010 [978-4062576666]

この通りに書けば卒論ができあがる、かどうかはあなた次第です。読むなら研究室配属される前に是非!

『100ページの文章術～わかりやすい文章の書き方のすべてがここに』

酒井聡樹(著)

共立出版 2011 [978-4320005853]

レポート・試験・エントリーシート・卒論…これから文章を書く機会はたくさんあります。自分の書いた文章に「意味不明」とコメントされたことはありませんか? 「読者にわかって貰うための文章」の書き方がここにあります。

『これから論文を書く若者のために（大改訂増補版）』

酒井聡樹(著)

共立出版 2006 [978-4320005716]

勉強から研究へ。大学に入学して、研究という仕事に興味をもったあなた。本書の第1章をめくってみてください。

『植物のかたち～その適応的意義を探る』

酒井聡樹(著)

京都大学学術出版会(生態学ライブラリー) 2002 [978-4876983193]

タイトルには表れてない面白さがこの本にはあります。大学入学から一流の研究者になるまでの様々な失敗談や試行錯誤の様子を描きながら、「研究する人生」の楽しみが紹介されています。

『フィールドの観察から論文を書く方法～観察事例の報告から研究論文まで』

濱尾章二(著)

文一総合出版 2010 [978-4829911778]

キャンパスを歩いていて面白いことに気付き、興味をもって調べれば、立派な研究に発展します。この本を読んで、自分の観察したことを世に発表してみませんか？

◆難波利幸先生推薦<生物系>.....

『カラー版 里山を歩こう (Part2) ～わき水の里から琵琶湖へ』

今森光彦(著)

岩波書店(岩波ジュニア新書) 2008 [978-4005006007]

近畿の水がめ、琵琶湖。琵琶湖と源流の山々をつなぐのは川だけではありません。湖岸の集落に湧き水となって噴き出す伏流水。湧き水と水路をつなぐ各家庭の「かばた」。琵琶湖からフナやドジョウが上る田んぼ。人々の暮らしが湖や生き物を守ります。

### 『春を恨んだりはしない～震災をめぐるって考えたこと』

池澤夏樹(著) 鷲尾和彦(写真)

中央公論新社 2011 [978-4120042614]

旅する作家、池澤夏樹が、震災の全体像を描くことに挑みます。「助ける、ということの不条理を意識し」つつも、「人間は、仲間に手を差し伸べる存在」。「人間の手には負えない」「原子力を使うのを止め」「『昔、原発というものがあった』と笑って言える時代」は来るのでしょうか。

### 『なんにもないけどやってみた～プラ子のアフリカボランティア日記』

栗山さやか(著)

岩波書店(岩波ジュニア新書) 2011 [978-4005006960]

渋谷109系のガン黒ギャル・プラ子がエチオピアの施設に向かい、痛みと苦しみと貧困に包まれた世界で、「月」とよばれて献身的に尽くします。今、協会アシャンテママを運営し、モザンビークの貧しい女性たちの自立を助けているプラ子を応援しませんか？

### 『生命は細部に宿りたまう～マイクロハビタットの小宇宙』

加藤真(著)

岩波書店 2010 [978-4000062763]

入江の波打ち際・玉石海岸の礫の間隙・石清水が伝う湿崖・暗い林床の落ち葉の下…見落とされがちな細部に生命が宿り、生物多様性や生態系機能の維持に大きな役割を果たしています。はたして、ジュゴンの生息する辺野古の海を埋め立ててもよいのでしょうか？

### 『想像するちから～チンパンジーが教えてくれた人間の心』

松沢哲郎(著)

岩波書店 2011 [978-4000056175]

人間とは何か？ この本は、人間にもっとも近い進化の隣人であるチンパンジーを、実験室や自然界での観察を通じて深く知ることから、二足歩行・道具の使用・言語の習得など、従来の類型的な理解を超えて、人間の心について考えさせてくれます。

### 『歩いて見た太平洋戦争の島々』

安島太佳由(著) 吉田裕(監修)

岩波書店(岩波ジュニア新書) 2010 [978-4005006526]

今から約70年前、日本はアメリカとの戦争に突入しました。太平洋戦争の激戦地を訪れ、かつての兵士や遺族たちの声に耳を傾けた著者が語るように、「日本軍はあまりにも兵士一人一人の命を軽く扱っていた」のです。そして、アジアや沖縄の人たちの命も…。

## 『野生のうたが聞こえる』

アルド・レオポルド(著)新島義昭(訳)

講談社(講談社学術文庫) 1997 [978-4061593015]

自らが撃った母オオカミに近寄り、緑色の炎が両目から消えていくのを見たとき、アルド・レオポルドは、オオカミと山にしかわからないものがあることを悟ります。野生生物保護の先駆者による、美しい自然描写と、環境倫理についての鋭い考察、一読の価値があります。

## 『捕食者なき世界』

ウィリアム・ソウルゼンバーク(著)野中香方子(訳)

文藝春秋 2010 [978-4163729503]

レオポルドが見た20世紀前半のアメリカ、そして今、日本でも…。オオカミなき世界で有蹄類の爆発的増加による植生破壊が深刻化しています。食物連鎖の頂点に立つ捕食者が生態系にどれだけ大きな影響を与えるのか、第一線の生態学者への丹念なインタビューを交えて語られます。

## 『クジラと海とぼく』

水口博也(著)しろ(イラスト)

アリス館 2010 [978-4752005230]

何気ないきっかけから一生をかけて追いかける夢を見つけることができる幸せ…夢に向かってまっしぐらに努力とはなかなかいかないけれど、幸運の女神に恵まれて夢を実現する喜び…あなたにとっての「クジラと海」は何でしょう。

## 『なぜシロクマは南極にいないのか～生命進化と大陸移動説をつなぐ』

デニス・マッカーシー(著)仁木めぐみ(訳)

化学同人 2011 [978-4759814637]

約2億年前の地球上に存在したゴンドワナとローラシアの二つの大陸。それらが分かれていく過程で「生物と地球はともに進化し」、人類の文化にも大きな影響を及ぼしてきました。本書は、この過程を明らかにする生物地理学の成果を、わかりやすく紹介してくれます。

## 『雪の練習生』

多和田葉子(著)

新潮社 2011 [978-4104361045]

サーカスから作家に転身し、自伝を書く私。娘のトスカは、夢の世界を舞台で演じ、ウルズラの伝記を書く。そして、トスカに里子に出されたクヌート。真っ白な北極と、ヨーロッパの歴史と文化を背景に語られるこの伝記を書いたのは、いったい誰なのでしょう？

## 『Born on a Blue Day』 (洋書)

Daniel Tammet(著)

Hodder Paperback 2007 [978-0340899755]

サヴァン症候群とアスペルガー症候群のために、数学や語学には特異な才能を発揮するものの、人とのコミュニケーションが不得手なダニエル。家族やパートナーの愛情に包まれて成長していきます。翻訳もありますが、英語で読んでみるのもいいでしょう。

◆西野智昭先生推薦<戦略的研究部門>-----

『日本人の英語(正・続巻)』

マーク ピーターセン(著)

岩波書店(岩波新書) 1988 [978-4004300182, 978-4004301394]

日本人がおかしがちな英語の間違いをユーモアを交えて解説した古典的な良書。受験英語から脱却し英語的発想を身につけるために最適です。日本人が苦手な冠詞について特に明晰に解説されています。

◆沼倉宏先生推薦<物質化学系>-----

『キュリー夫人伝』

エーヴ・キュリー(著)川口篤、河盛好藏、杉捷夫、本田喜代治(訳)

白水社 1988 [978-4560029374]

貧しい研究生生活の中、ラジウムの分離という辛い厳しい汚れ仕事に、あたかも炭鉱労働者のように突き進む異邦人。彼女を駆り立てるものは何か? 崇高で強靱な科学者の精神を垣間見て、君も科学者を志すでしょう。

『X線からクォークまで~20世紀の物理学者たち』

エミリオ・セグレ(著)久保亮五、矢崎裕二(訳)

みすず書房 1982 [978-4622024668]

「この世界は何でできているのか?」デモクリトスの原子論から2300年を経て、人類の知恵と技術がついに究極の問題を解き明かした歴史の生き生きとした記録です。成し遂げられた事柄のみならず、それを成し遂げた人間の営みの素晴らしさを見てください。

『The Elements of Style (Fourth Edition)』(洋書)

William Strunk Jr., E. B. White(著)

Longman 2000 [978-0205309023]

日本の「国語」の授業は情緒豊かな人を育てますが、西洋の母語教育は事実や思考を正確明瞭に表現することを重視します。簡潔明快な英語表現の指南書として英語圏では知らぬ人のない古典的名著(初版1959年)。貴方の日本語も変わることを請け合いです。

『集合とはなにか~はじめて学ぶ人のために』

竹内外史(著)

講談社(ブルーバックス) 2001(初版 1976) [978-4062573320]

つまるところ、数学とは何か? 工学部の学生だった私は「ものごとを定量的に考えるのに必要かつ便利な道具」と漠然と思っていましたが、この小さな本によって、数学とは「論理」すなわち人間の知的活動の原点であることを知りました。

### 『理科系の作文技術』

木下是雄(著)

中央公論新社(中公新書) 1981 [978-4121006240]

題目は「技術」ですが、自分の考えを相手に伝えたい、わかってほしいという「ココロ」が育ちます。「理科系」に限らずあらゆる分野の学生にお薦めです。

◆野中敏士先生推薦<総合リハビリテーション系>-----

### 『壊れた脳 生存する知』

山田規敏子(著)

講談社 2004 [978-4062122689]

著者は脳卒中を発症した医師です。医療従事者でも十分に理解できていない高次脳機能障害について、医師の立場、自身の経験からわかりやすく説明されています。高次脳機能障害を理解するための一助になると思います。

◆原田敦史先生推薦<物質化学系>-----

### 『生物学的文明論』

本川達雄(著)

新潮社(新潮新書) 2011 [978-4106104237]

数学・物理学的発想を基盤とした現在の生活を、生物学的発想で眺めると、環境問題など現代社会の諸問題が違って見えてきます。さまざまな視点で物事をとらえる大切さ、面白さがわかる一冊です。

◆樋口由美先生推薦<総合リハビリテーション系>-----

### 『決断力』

羽生善治(著)

角川書店(角川oneテーマ21) 2005 [978-4047100084]

数々のタイトルを手にする羽生棋士が、将棋を介して、文字どおり「決断すること」について語っています。「〇〇力」が流行った頃に出版されたため、このよう

なタイトルですが、天才の人生哲学に触れることができる想像以上に深い一冊です。

### 『生物と無生物のあいだ』

福岡伸一(著)

講談社(講談社現代新書) 2007 [978-4061498914]

「生命とは何か？」という科学の根源的内容について、非常に美しい日本語で書かれています。優秀な科学者は優秀な文学者でもあることを再認識させてくれます。

#### ◆藤原宣夫先生推薦<緑地環境系>

### 『種子はひろがる～種子散布の生態学』

中西弘樹(著)

平凡社(自然叢書) 1994 [978-4582546217]

原っぱで遊びまわり、服にいっぱい種をつけて帰った思い出を誰しも持っているでしょう。知らぬ間に植物の分布拡大に協力していたのです。本書は、植物が種子を使って分布を拡大する戦略を、楽しく語ってくれる植物生態学の入門書です。

#### ◆古川朋雄先生推薦<社会科学系>

### 『それでも企業不祥事が起こる理由～“法令遵守”を超えるコンプライアンスの実務』

國廣正(著)

日本経済新聞出版社 2010 [978-4532316167]

本書は、日本における「コンプライアンス」の問題点・改善点について、近年の企業不祥事を例として検討を行うもので、内部統制の本質とは何か、また「経営者が責任を負う」とはどのようなことかを考える端緒となる一冊です。

### 『ヒューマンエラーは裁けるか～安全で公正な文化を築くには』

シドニー・デッカー(著)芳賀繁(訳)

東京大学出版会 2009 [978-4130530170]

本書は、加害者である専門家側の視点から、事件や事故に対する責任のあり方について考察を行っています。被害者側の意見はよく報道されますが、本書を元に加害者側の事情や意見を知ること、より適切な解決を図るバランス感覚を養うことができるでしょう。

## 『雇用はなぜ壊れたのか～会社の論理vs. 労働者の論理』

大内伸哉(著)

筑摩書房(ちくま新書) 2009 [978-4480064837]

本書は、日本の雇用に関する様々な問題点について、会社と労働者双方の論理を元に考察しています。著者は労働法学者ですが、具体例を挙げて平易な説明がされており、法律に関する知識がない学生にも読みやすい一冊です。

◆古田雅一先生推薦<地域連携部門>-----

## 『研究者という職業』

林周二(著)

東京図書 2004 [978-4489006852]

本書の中で著者は、自らの経験を踏まえて研究者として成功するために何が必要か? どのような視点で努力すればよいか? を厳しい視点で提言しています。また現在の我が国の大学や大学院教育が抱えている問題点に鋭く切り込んでいるのも興味深いところです。もし皆さんが研究者という職業に興味があるのであれば是非一読をお勧めします。

◆本多克宏先生推薦<電気情報系>-----

## 『至高聖所(アバトーン)』

松村栄子(著)

福武書店 1992 [978-4828824178]

大学に入学し、ちょっとした寂しさや目標喪失を感じた人にお勧めです。入学して寮生活を始めた主人公の女子学生が、孤独と癒しを思案します。舞台は仮想の大学ですが、本学キャンパスにも小説内の風景が見当たるかも…。芥川賞受賞作。

◆松浦義昌先生推薦<地域連携部門>-----

## 『健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学』

出村慎一(著)、山次俊介(著)

杏林書院 2011 [978-4764411180]

本書は、統計学の初心者にも理解しやすい入門書です。本書ではあえて難しい数式をできるだけ少なくし、日常生活でよく使われる材料をイラスト化して、わかりやすく解説しています。また、なぜ統計を行う必要があるのかといった研究の根本的な部分についても理解しやすく解説しています。

## 『動物としてのヒトを見つめる～衛生学・文化人類学そして生活学へ』

島田彰夫(著)

農山漁村文化協会 1991 [978-4540900969]

本書は、人間の生活という漠然としたものを、健康を核として考えるという試みを行っています。現代社会における様々な矛盾やズレを指摘し、動物としてのヒトの存在を今一度、考え直すことが本来の人間の生活であるとしています。特に発育発達過程にある初潮年齢の低下現象や食生活と健康との関連の研究成果から、人間の社会文化的な生活に対して様々な警笛を鳴らしています。

◆武藤明德先生推薦<物質化学系>

『英語は絶対に逆から学ばな！』

崔宰鳳(著)大川義之(訳)

スカイ出版 2010 [978-4434149887]

この奇妙な書名の本は、英語を読む順に徹底的に前から解釈することを目標として  
います。本書によれば、「I took a shower after lunch.」は、「私は昼食の後、  
シャワーを浴びた。」ではなく、「私はシャワーを浴び、その前に昼食をとった。」  
となります。目から鱗の流儀は受験英語から開放された貴方にぴったりでしょう。

◆邨次誠先生推薦<総合リハビリテーション系>

『実況・料理生物学』

小倉明彦(著)

大阪大学出版会(阪大リーブル) 2011 [978-4872593136]

(いわゆる)正統派的な講義の重要性や自ら深くかつ広く学ぶことの必要性、そし  
て学ぶ対象がごく身近にあることを再認識させてくれるでしょう。学生諸君が正統  
派的な講義をつまらないと思うときに…。

◆森岡正博先生推薦<人文科学系>

『自然保護を問いなおす～環境倫理とネットワーク』

鬼頭秀一(著)

筑摩書房(ちくま新書) 1996 [978-4480056689]

自然保護とはいったい何なのかを、非常にわかりやすく解説した上で、著者の独  
自の思想を述べた本です。日本の環境倫理学に新しい地平を開いた本として、高く  
評価されています。環境に興味のある学生の必読書と言えるでしょう。

◆八木俊介先生推薦<戦略的研究部門>

『ご冗談でしょう、ファインマンさん(上・下巻)』

R.P. ファインマン(著)大貫昌子(訳)

岩波書店(岩波現代文庫) 2000 [978-4006030056, 978-4006030063]

繰り込み理論により、朝永振一郎・シュウィンガーと共にノーベル物理学賞をと  
った物理学者ファインマンの自伝。物理の話というよりもむしろファインマンとい  
う人間そのものが考えたり、感じたことがよく分かる一冊で、専門知識がそれほど  
ない新入生にも読みやすく勉強する意欲も湧くと思います。

(☆山口睦先生も推薦☆)

『困ります、ファインマンさん』

R.P. ファインマン(著)大貫昌子(訳)

岩波書店(岩波現代文庫) 2001 [978-4006030292]

ご冗談でしょう、ファインマンさんの続編です。

(☆山口睦先生も推薦☆)

◆矢澤彩香先生推薦<総合リハビリテーション系>-----

『栄養士&管理栄養士まるごとガイド』

藤沢良知(監修)「食生活」編集部(編集)

カザン 2008 [978-4876895878]

管理栄養士や栄養士の仕事について、おおまかなことがわかります。とりあえず…の気持ちで読んでみてください。

◆安田雅昭先生推薦<電子数物系>-----

『物理学とは何だろうか(上・下巻)』

朝永振一郎(著)

岩波書店(岩波新書) 1979 [978-4004200857, 978-4004200864]

古い本になりますが、物理学がどのように築かれて来たか、物理学者の思考の過程が、その当時の時代背景と共にわかりやすく説明されています。これまで教科書や受験参考書でのみ物理学を勉強してきた学生さんには一度は読んでもらいたいと思う本です。

◆山口睦先生推薦<高等教育推進部門>-----

『若きウェルテルの悩み』

ゲーテ(著)竹山道雄(翻訳)

岩波書店(岩波文庫) 1978 [978-4003240519]

悲しい恋愛小説で結末も悲劇的です。私は高校時代に母に薦められたので読み(読んでしまいました)。大学生になったんだから、もしまだ読んでなければ、悲しい恋愛小説も一冊ぐらいいは読みましょう。ただし、この本を読んだ後、マネして自殺など決してしないように!!

『ご冗談でしょう、ファインマンさん(上・下巻)』

R.P. ファインマン(著)大貫昌子(訳)

岩波書店(岩波現代文庫) 2000 [978-4006030056, 978-4006030063]

ファインマン先生は科学者の有るべき姿を自らの生き方で示されたと思います。ファインマン先生のシリーズ本の第一・二巻、スペースシャトル・チャレンジャー爆発事故の原因究明のときのファインマン先生の大活躍に拍手喝采です。

(☆八木俊介先生も推薦☆)

『困ります、ファインマンさん』

R.P. ファインマン(著)大貫昌子(訳)

岩波書店(岩波現代文庫) 2001 [978-4006030292]

ファインマン先生のシリーズ本の第三巻。この本でも「ファインマン節」炸裂です。普通の人だと、単なる手柄話。自慢話になってしまうような内容も、ファインマン先生だと感心しながらどんどん読み進めてしまうのは、やっぱり先生の人徳のせいだと思います。

(☆八木俊介先生も推薦☆)

## 『数学の歴史』

森毅(著)

講談社(講談社学術文庫) 1988 [978-4061588448]

「曲者」の森先生から見た数学史の本です。森先生流の毒舌と独断と偏見が随所にちりばめられ、森先生独自の視点から、過去の有名な数学者達の姿が生き生きと描かれており読んで面白い本です。一昨年の7月24日に亡くなられた森先生のご冥福をお祈りして黙祷。

## 『数学はいつも苦手だった』

アルブレヒト・ボイテルスバッヒャー(著)石井志保子(訳)

日本評論社 2004 [978-4535783027]

数学者のものの考え方や生態、数学が何の役に立つかが書かれた本。数学者が読んでも(だら?)面白いです。数学を学ぶことによって、得られる数学の知識よりも、物事を抽象化・一般化して問題の本質を見抜く能力や、論理的な思考方法が身につくことの方が大切なことであるという意見に全く同感です。

## 『数学の美しさを体験しよう～三つの公開対話』

サージ・ラング(著)宮本敏雄(訳)

森北出版 1989 [978-4627018105]

数多くの数学の本を書いたのは、離婚の慰謝料を払うためだと陰口を言われたラング先生の、数学を専門としない人達向けの講演録。本格的な数学のトピックを講演の題材にして、聴衆とやり取りをしながら講演を進める様子はスリル満点です。

## 『石橋を叩けば渡れない』

西堀栄三郎(著)

生産性出版 1999 [978-4820116547]

畏敬の念を抱くほど西堀先生の前向きな考え方や生き方に憧れます。こんな人のことを大人物と言うのでしょうか。西堀先生が南極越冬隊の隊長として、数々の困難を、知恵と見事なリーダーシップで乗り越えてゆく姿に感動しました。

## 『ファウスト (第一・第二部)』

ゲーテ(著)相良守峯(訳)

岩波書店(岩波文庫) 1958 [978-4003240625, 978-4003240632]

エネルギーがすぎて、人殺しまでしてしまうファウストには、私なんかかなり引いてしまいましたが、ファウストの最後の有名な台詞「時よとどまれ、おまえは美しい」にじびれました。新入生の方々が生まれる遙か前の話です。1978年の矢沢永吉の名曲「時間よ止まれ」を作詞した人はファウストを読んだに違いないと勝手に確信しています。

## 『零の発見～数学の生いたち』

吉田洋一(著)

岩波書店(岩波新書) 1986 [978-4004000136]

数学の生い立ちについて、わかりやすく書かれた古典的名著です。零を数として認識することの偉大さを思い知らされました。この他にも「俊足のアキレスは亀に追いつけない」とか「飛んでいる矢は止まっている」という「ゼノンの逆理」について考察され、「無限」という概念を正しく捉えることの難しさについて考えさせ

られました。

『よろず数学問答～数学のわからないこと 聞きたいこと あなたの疑問に  
丁寧にお答えします』

石川剛郎(著)

日本評論社 2008 [978-4535786004]

北海道大学で数学を教えている石川先生の数学と学生たちへの愛に満ちた、「生協の白石さん」風の学生たちとの心温まる問答集です。時に的外れな学生からの質問にも言葉を選んで誠実に答えている姿は、私も見習わないといけません。私の大学・大学院時代の2年先輩である石川先生を見直しました。こんなにいい人だったのか…。

◆山田加奈子先生推薦<看護系>-----

『エンバーマー』

橋爪謙一郎(著)

祥伝社 2009 [978-4396613235]

「ご遺体」を修復する「エンバーマー」というお仕事。その真の目的は、ご遺族のために、故人との「お別れの場」を準備してあげること…「死とは」「悲しみを癒すためにどう支えてあげればいいのか」など様々なことを考えさせてくれます。

『Mother～いのちが生まれる』

宮崎雅子(著)

医学書院 2011 [978-4260014441]

二十数年の妊娠・出産の厳選写真75点をまとめた写真集。いのちの誕生の写真は、一瞬で見る者の心を揺さぶります。妊婦と家族、そして分娩を介助する助産師へのやさしいまなざしが、そのまま写真に投影され、感じる何かがきつとあるはずです。

『奇跡の教室～エチ先生と『銀の匙』の子どもたち』

伊藤氏貴(著)

小学館 2010 [978-4093881630]

元灘校国語教師は従来の国語の教科書を使わず、中学の三年間をかけて、『銀の匙』一冊を生徒とともに、じっくり読み込んでいったといいます。焦ることなく、役立つかどうかなども考えず、興味の赴くままに、ひとつのことをじっくりと掘り下げてみるのもいいのかもしれません。

『たましいのケア～病む人のかたわらに』

藤井理恵、藤井美和(著)

いのちのことば社 2000 [978-4264018629]

看護に関わる人のみならず多くの人に読んでもらいたい本です。宗教・宗派を問わずターミナルケアにおけるスピリチュアル・ケアとは何かについて有益な知見を読者にもたらししてくれ、人にやさしくなれる本だと思います。

『モモタロー・ノー・リターン&サルカニ・バイオレンス～昔むかし、  
ジェンダーがありましたとさ…』

奥山和弘(著)

十月舎 2011 [978-4434155581]

昔話を基に書かれた本で、性や年齢を問わず読む人をニヤッと笑わせつつ、ジェンダーや常識や固定観念の中に大きくて根深いゆがみがあり、それらが実は人々をしばって生きにくくさせているということに気づかせてくれます。

◆吉田敦彦先生推薦<人文科学系>-----

### 『持続可能な福祉社会～「もうひとつの日本」の構想』

広井良典(著)

筑摩書房(ちくま新書) 2006 [978-4480063113]

「新書」であたりをつけ、同じ著者を「追っかけ」して読み、学友と著者名をキーワードにして語り合えるようになると、一人前の大学生。この著者・広井氏は一貫して、「福祉・教育(ケア)」と「環境システム」の交差点にある問題を探求してきました。

◆米津亮先生推薦<総合リハビリテーション系>-----

### 『日本語の作文技術』

本多勝一(著)

朝日新聞出版(朝日文庫) 1982 [978-4022608086]

普段何気に話している日本語。しかし、大学教育では他者にわかりやすく論理的に説明する能力が求められます。本書は、日本語の奥深さを感じる一冊になると思います。

☆編集担当より☆

「本を読む」ことは、自分の知識の幅や表現力の幅を広げることに、非常に役に立ちます。マンガやテレビ、インターネットなどから得る知識も大切ですが、「本」という“活字”で得た知識が一番頭に残っているという事実があります。そして、私は、本をたくさん読んできたことで今、編集という仕事をしています。まだまだ、たくさん本を読んで、色々学んで、もっと優れた編集を目指していこうと思っています。

学生の皆さんも「本を読む」楽しさを知り、自分に役立つ何かを見つけてください。  
(OMUP.H)



## OMUPの由来



大阪公立大学共同出版会（略称OMUP）は新たな千年紀のスタートとともに大阪南部に位置する5公立大学、すなわち大阪市立大学、大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学ならびに大阪府立看護大学医療技術短期大学部を構成する教授を中心に設立された学術出版会である。なお、府立関係の大学は2005年4月に統合され、本出版会も大阪市立、大阪府立両大学から構成されることになった。また、2006年からは特定非営利活動法人(NPO)として活動している。

Osaka Municipal Universities Press (OMUP) was established in new millennium as an association for academic publications by professors of five municipal universities, namely Osaka City University, Osaka Prefecture University, Osaka Women's University, Osaka Prefectural College of Nursing and Osaka Prefectural College of Health Sciences that all located in southern part of Osaka. Above prefectural Universities united into OPU on April in 2005. Therefore OMUP is consisted of two Universities, OCU and OPU. OMUP was renovated to be a non-profit organization in Japan from 2006.



生協書籍購買店では、組合員さんに、通常5%OFF(定価の)で本や雑誌を販売しています。また不定期に10%のフェアも実施しています。たまにお店をのぞいてみて下さいね。

生協では、学生さんでつくる本好きのあつまり、「本屋サークル」というのがあります。

本のことについていろいろと「語りあいたい」方は是非ともご参加ください。

お問い合わせは生協書籍カウンターまで・・・



大阪府立大学生協書籍部  
電話 072-259-1736(書籍部直通)  
E-mail : fudaibook@osaka.seikyuu.ne.jp

※生協はOMUPの出版活動を応援しています。

YONDOKU!!



---

**NPO法人 大阪公立大学共同出版会 (OMUP)**

〒599-8531 大阪府堺市中央区学園町1-1 大阪府立大学内  
[A14棟2F221号室]

電話 072-251-6533 FAX 072-254-9539

E-mail : [omup@hs.osakafu-u.ac.jp](mailto:omup@hs.osakafu-u.ac.jp)

HP : <http://www.omup.jp/>

---